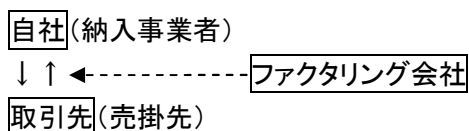


「ファクタリング」(factoring)とは？

ファクタリングとは、自社が保有する売掛債権をファクタリング会社買い取ってもらって、決済日より早期に現金化する手法のことをいいます。よく売掛債権担保融資(ABL)と混同されがちですが、あくまでも債権譲渡であり融資ではありません。たとえば、ある取引先との契約が「月末締めの翌月末払い」となっていると、実際に入金されるまで30日以上かかります。通常は2社での取引になります。

<イメージ>



しかしながら、早期に回収したいときには、ファクタリング会社を介在させて活用すれば、早期現金化(資金化)が実現するわけです。つまり、ファクタリング会社に債権譲渡をして、譲渡代金を前払いしてもらうというイメージです。ファクタリング会社は、「売掛先」から回収をします。通常は、売掛先に通知して同意を得て、ファクタリング業者と納入企業と売掛先の3社間で取引します。これは「3社間ファクタリング」と呼ばれているスキームです。主に金融機関系のノンバンクがこのスキームを行っています。

<例>大手ファクタリング会社

三菱UFJファクター <https://www.muf.bk.mufg.jp>
SMBCファイナンスサービス <https://www.smbc-fs.co.jp>
みずほファクター <http://www.mizuho-factor.co.jp>

しかしながら、この3社間ファクタリングの最大のデメリットは、「**取引先に知られてしまう**」という点です。ファクタリング会社は、「取引先」企業に対して「債権が譲渡された旨の通知」又は「承諾を得る」という手続きを行うからです。これでは信用不安を感じさせてしまう可能性があるため、3社間ファクタリングを利用する企業は少ない、と言われていました。

“2社間”ファクタリングとは？

これに対して、「2社間ファクタリング」というスキ-

ームがあります。つまり「自社」と「ファクタリング会社」だけの取引でこのファクタリングを実施するスキームです。2社間ファクタリングは、取引先に対して債権を譲渡した旨の通知又は承諾が伴いません。これであれば信用不安などの心配はありません。

それでは、ファクタリング会社はどうやって回収をするのか？といいますが、利用事業者から回収するのはです。つまり、ファクタリング会社にとっては高リスクであるといえます。たとえば、「他の取引先に払ってしまった」「口座振替で引き落とされてしまった」という場合もあり得るからです。その結果、ファクタリング手数料がとても高くなります。あくまで平均ですが、手数料は**3社間だと5%以下、2社間ですと5%以上**になります。中には**30%、40%**というような**高額手数料を請求する**ファクタリング業者もあるようです。よって、2社間は利用しやすいのですが、慎重にファクタリング会社を選択することが何よりも重要です。

“2社間”ファクタリングは詐欺なのか？

一般的に2社間ファクタリングにおける世間の評判はよろしくありません。しかしながら、全ての業者が悪質というわけではありませんし、ファイナンス手法の一つであるファクタリング自体を否定しないようにして下さい。またAI審査による2社間ファクタリングを行っているフィンテックベンチャー企業もあるくらいです。(<例>OLTA <https://www.olta.co.jp>)

まずは3社間を検討してから、2社間を検討するようにして下さい。なお、現在、金融庁からはファクタリングに関して以下のような注意喚起がされています。

・高額手数料ファクタリング

https://www.fsa.go.jp/ordinary/chuui/kinyu_chuui4.html

・給与買取り違法ヤミ金融(給与ファクタリング)

https://www.fsa.go.jp/ordinary/chuui/kinyu_chuui2.html

また、ファクタリングの自主規制団体も発足されていますので、そちらで情報収集するのも一案だと思われます。

<一般社団法人日本ファクタリング業協会>

<http://www.j-factoring.or.jp>